${\rm I\hspace{-.1em}I\hspace{-.1em}I}$

在宅介護実態調査

Ⅲ-1. 調査概要

1 調査の目的

「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点から、「高齢者等の 適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討す るための基礎資料を得ることを目的とし、以下の調査を実施した。

調査種別	調査の目的		
A票	対象者の世帯類型、介護の頻度、介護のための離職の有無、施設等への入所・入居の検 討状況等を把握する。		
B票	主な介護者の勤務形態、働き方の調整の状況、就労継続の可否に係る意識、在宅生活の継続に向けて不安に感じる介護等を把握する。		

調査項目は『在宅介護実態調査』として国が示した内容のとおりとした。

2 調査方法

介護保険認定調査実施時に、介護保険認定調査員が、調査対象者や調査に立ち会っている家族などに、聞き取り調査を行った。

3 調査対象

区内で在宅生活をしている、要介護・要支援認定の区分変更および更新申請に伴う認定調査対象者と その家族で、「在宅介護実態調査」へのご協力の了解を得られた方。

4 調査期間

平成 28 年 10 月 13 日~平成 29 年 3 月 14 日

5 回収状況

対象者数	有効回答数 (率)
493	493 (100%)

6 報告書を利用するにあたって

- 図・表中のnとは、基数となる実数のことである。
- 回答はnを100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 〇 報告書作成にあたり「厚生労働省老健局介護保険計画課 在宅介護実態調査集計分析ソフト 2010 版」を用いてデータ集計・分析を行った。
- サービスの利用回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義は以下のとおりである。

<サービスの利用の分析に用いた用語の定義>

用語	定義		
未利用	・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、「未		
	利用」として集計している。		
訪問系	• (介護予防) 訪問介護、(介護予防) 訪問入浴介護、(介護予防) 訪問看護、		
	(介護予防) 訪問リハビリテーション、(介護予防) 居宅療養管理指導、夜間		
	対応型訪問介護を「訪問系」として集計している。		
通所系	・ (介護予防) 通所介護、(介護予防) 通所リハビリテーション、(介護予防)		
	認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。		
短期系	・ (介護予防) 短期入所生活介護、 (介護予防) 短期入所療養介護を「短期系」		
	として集計している。		
そ 小規模多機能	・(介護予防) 小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。		
の看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計している。		
他 定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。		

<サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義>

く)		
用語	定義	
未利用	・上表に同じ	
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計している。	
訪問系を含む	・上表の「訪問系(もしくは定期巡回)」+「通所系」、「訪問系(もしくは	
組み合わせ	定期巡回)」+「短期系」、「訪問系(もしくは定期巡回)」+「通所系」	
	+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している。	
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計して	
	いる。	

<障害高齢者の日常生活自立度>

71 1 1			
用語	説明		
	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。		
J	J 1 交通機関等を利用して外出する。		
	J2 隣近所へなら外出する。		
	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。		
A	A1 : 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。		
	A2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。		
	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。		
В	B1 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。		
	B2 介助により車いすに移乗する。		
	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。		
С	C1 自力で寝返りをうつ。		
	C2 自力では寝返りもうたない。		

<認知症高齢者の日常生活自立度>

用語	説明		
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。		
	日常生活に自立できる	常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば 立できる。	
Ш	Ⅱ a	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	
	Ⅱ b	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	
	日常生活に	こ支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
Ш	Ⅲ a	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	
	III b	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。		
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。		

Ⅲ-2. 調査結果の詳細(単純集計結果)

基本調查項目(A票)

(1)世帯類型

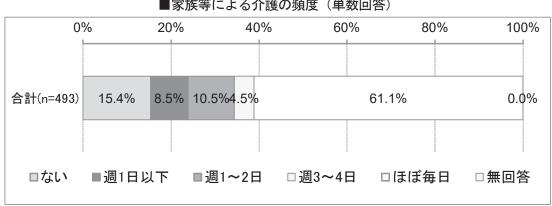
○「単身世帯」27.6%、「夫婦のみ世帯」31.0%、「その他」41.4%であった。

0% 20% 40% 80% 100% 60% 合計(n=493) 27.6% 31.0% 41.4% 0.0% □単身世帯 ■夫婦のみ世帯 ■その他 □無回答

■世帯類型(単数回答)

(2) 家族等による介護の頻度

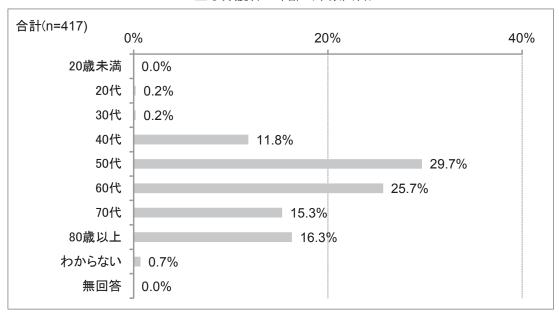
○「ほぼ毎日」が最も高く61.1%、次いで「週1~2日」が10.5%であった。一方、「ない」と回答 した割合は15.4%であった。



■家族等による介護の頻度(単数回答)

(3) 主な介護者の年齢

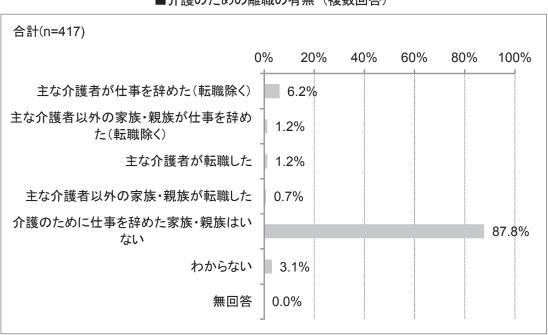
○「50代」と「60代」を合わせると 55.4%で半数以上を占めていた。70代以上も 31.6%と約3割を 占めていた。



■主な介護者の年齢(単数回答)

(4) 介護のための離職の有無

○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が87.8%と最も高かった。一方、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」割合は6.2%であった。

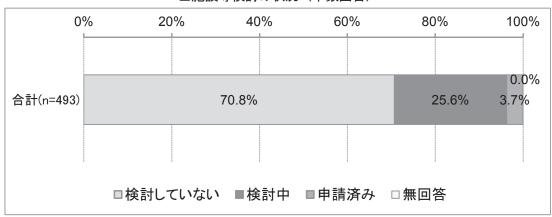


■介護のための離職の有無(複数回答)

(5) 施設等検討の状況

○「検討していない」が最も高く70.8%であった。一方、「検討中」と「申請済み」を合わせると3 割弱であった。

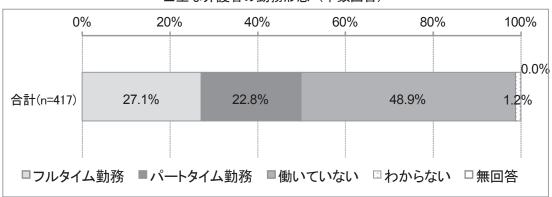
■施設等検討の状況(単数回答)



2 主な介護者に関する調査項目(B票)

(1) 主な介護者の勤務形態

○全体の約半数は働いており、「フルタイム勤務」は 27.1%、「パートタイム勤務」は 22.8%であ った。



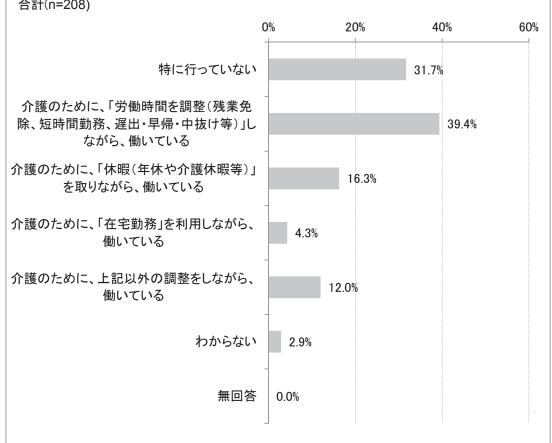
■主な介護者の勤務形態(単数回答)

(2) 主な介護者の働き方の調整状況

○「介護のために、『労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)』しながら、 働いている」割合が39.4%と最も高かったが、「特に行っていない」と回答した割合も31.7%あ った。

■主な介護者の働き方の調整状況(複数回答)

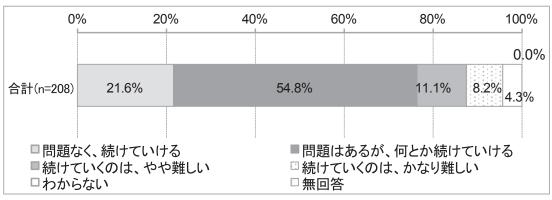
合計(n=208) 0% 20% 40%



(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

- ○「問題はあるが、何とか続けていける」が54.8%で最も高かった。
- ○「問題なく、続けていける」は21.6%だった。一方、「問題はあるが、何とか続けていける」「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」の合計は74.1%で、主な介護者が働く上で何らかの問題を感じているのは7割を超えた。

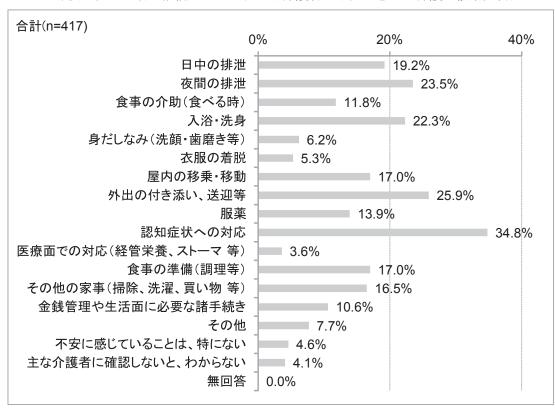




(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

○「認知症状への対応」が 34.8%と最も高く、「外出の付き添い、送迎等」が 25.9%、「夜間の排泄」が 23.5%と続いた。

■今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護(複数回答)

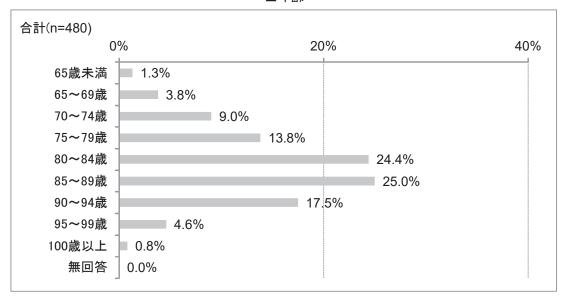


3 要介護認定データ

(1) 年齢

○調査対象者は、75歳以上の後期高齢者が86.1%で、一方、「65歳未満」は1.3%であった。

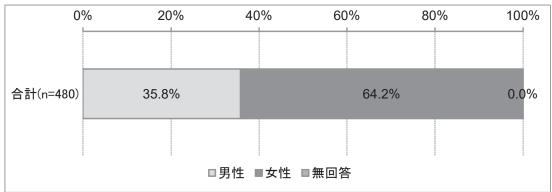
■年齢



(2)性別

○「男性」35.8%、「女性」64.2%であった。

■性別



(3) 二次判定結果(要介護度)

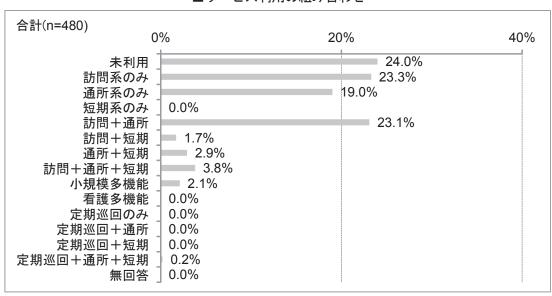
○「要介護 2」が 26.9%、「要介護 1」が 22.1%であった。「要支援 1」と「要支援 2」は合わせて 11.6%、要介護 3 以上は 38.9%と約 4 割を占めた。

合計(n=480) 0% 40% 20% 非該当_認定 □ 0.4% 要支援1 5.6% 要支援2 6.0% 要介護1 22.1% 要介護2 26.9% 要介護3 **17.3%** 要介護4 13.5% 要介護5 8.1% 再調査 0.0% 取消 0.0% なし 0.0% 無回答 0.0%

■二次判定結果 (要介護度)

(4) サービス利用の組み合わせ

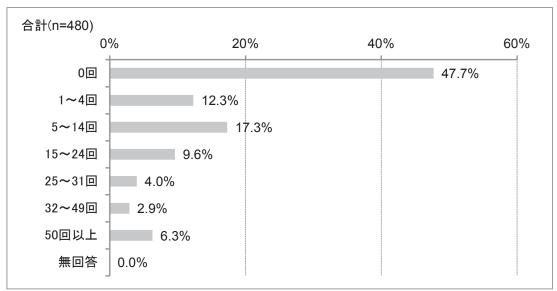
○「未利用」が24.0%と最も高く、「訪問系のみ」利用が23.3%、「訪問+通所」が23.1%、「通 所系のみ」が19.0%と続いた。



■サービス利用の組み合わせ

(5) 訪問系サービスの合計利用回数

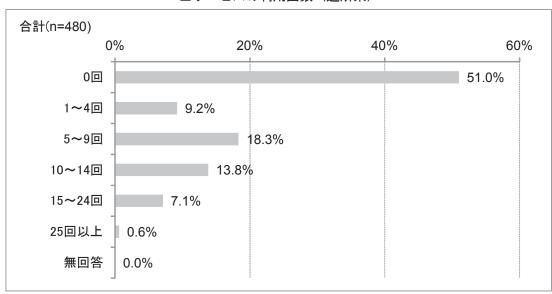
○「0回」が47.7%と約半数を占め、「5~14回」が17.3%、「1~4回」が12.3%と続いた。一方「50回以上」利用も6.3%あった。



■サービスの利用回数(訪問系)

(6) 通所系サービスの合計利用回数

○「0回」が51.0%と最も高く半数以上を占めた。次いで「5~9回」が18.3%、「10~14回」が13.8% と続いた。また、10回以上利用している割合は約2割であった。

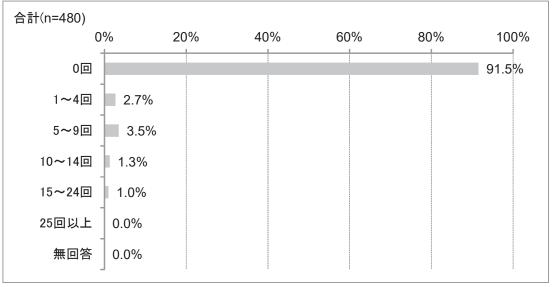


■サービスの利用回数(通所系)

(7) 短期系サービスの合計利用回数

○「0回」が91.5%と、9割を超えた。

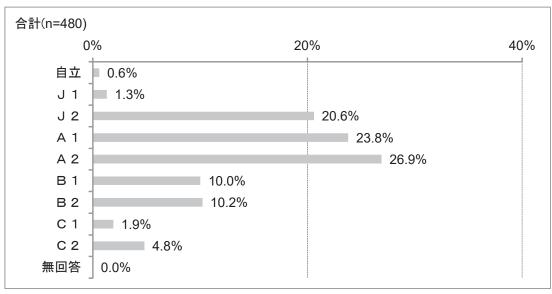




(8) 障害高齢者の日常生活自立度

○「J2」が20.6%、「A1」が23.8%、「A2」が26.9%であった。BおよびCランクの合計は26.9%と4分の1強を占めた。

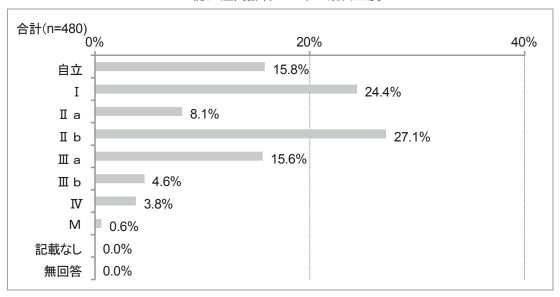
■障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

○「II b」が 27.1%と最も高く、「I」が 24.4%、「自立」が 15.8%と続いた。また、認知症III以上は、24.6%と約4分の1を占めた。

■認知症高齢者の日常生活自立度

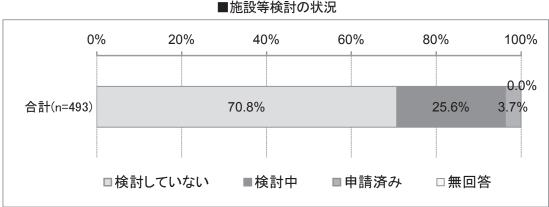


Ⅲ-3. 調査結果の詳細(クロス集計結果)

1 サービス利用状況等と介護者が不安に感じる介護

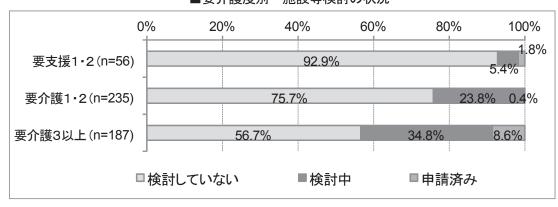
(1)基礎集計

○施設等検討の状況は、「検討していない」が70.8%と7割を超えた。一方、「検討中」または「申 請済み」は合わせて29.3%であった。



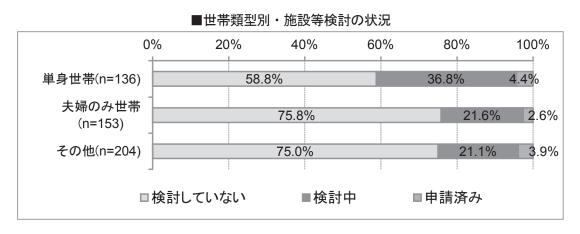
■施設等検討の状況

○要介護度別・施設等検討の状況で施設等の入所を「検討中」または「申請済み」は、『要支援1・ 2』で7.2%、『要介護1・2』は24.2%、『要介護3以上』は43.4%であり、重度化に伴い検討 中や申請済みの割合が高くなっていた。一方、『要介護3以上』においても「検討していない」が 56.7%と半数を超えた。



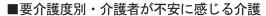
■要介護度別・施設等検討の状況

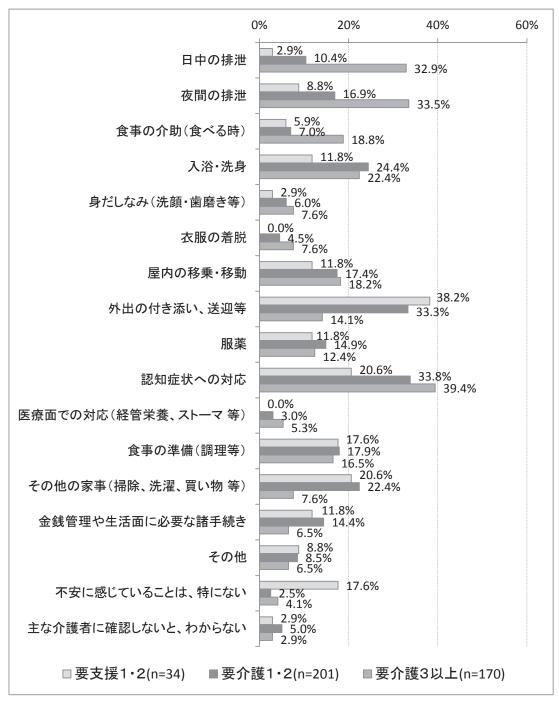
○世帯類型別・施設等検討の状況で施設等の入所を「検討中」または「申請済み」は、『単身世帯』 で 41.2%、『夫婦のみ世帯』で 24.2%であった。



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

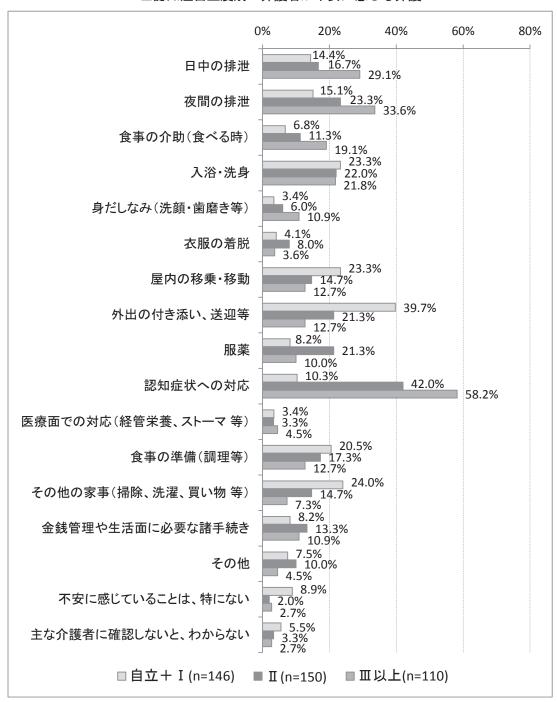
○『要支援1・2』では「外出の付き添い、送迎等」が38.2%と最も高く、『要介護1・2』と『要介護3以上』では「認知症状への対応」が最も高く、それぞれ33.8%、39.4%であった。また、『要介護3以上』では、「夜間の排泄」が33.5%、「日中の排泄」が32.9%と続いた。





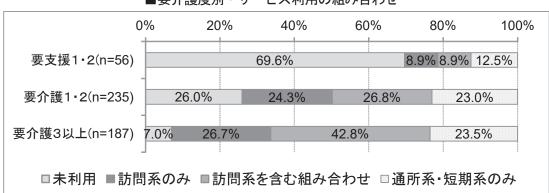
○認知症自立度『Ⅱ』および『Ⅲ以上』では「認知症状への対応」が最も高くそれぞれ 42.0%、58.2% であった。『自立+Ⅰ』では「外出の付き添い、送迎等」が最も高く 39.7%であった。『Ⅲ以上』では「夜間の排泄」33.6%、「日中の排泄」29.1%と続いた。

■認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



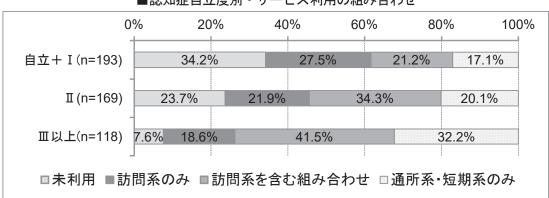
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

○要介護度の重度化に伴い、「未利用」の割合が減少し、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」 「通所系・短期系のみ」とも利用割合が増していた。特に「訪問系を含む組み合わせ」の増加が顕著であった。



■要介護度別・サービス利用の組み合わせ

○認知症自立度の重度化に伴い、「未利用」および「訪問系のみ」の割合が減少し、「訪問系を含む 組み合わせ」および「通所系・短期系のみ」の割合が増していた。

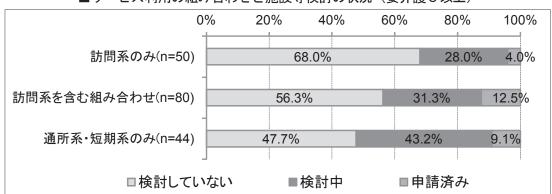


■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ

(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【要介護3以上】

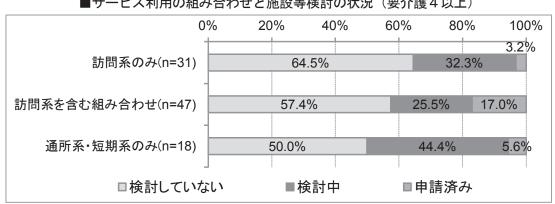
○施設等の入所を「検討していない」割合は、『訪問系のみ』のサービス利用者で最も高く68.0%、 『訪問系を含む組み合わせ』で56.3%、『通所系・短期系のみ』で47.7%となっていた。



■サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)

【要介護4以上】

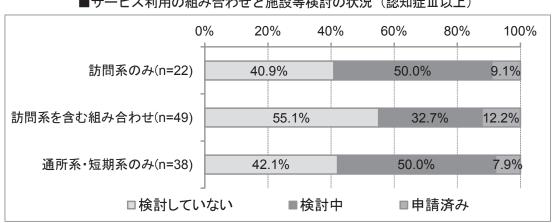
○施設等の入所を「検討していない」割合は、『訪問系のみ』のサービス利用者で最も高く64.5%、 『訪問系を含む組み合わせ』で57.4%、『通所系・短期系のみ』で50.0%となっていた。



■サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)

【認知症皿以上】

○施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は、『訪問系のみ』のサービス利用者で59.1%、 『訪問系を含む組み合わせ』の利用者で44.9%、『通所系・短期系のみ』利用者で57.9%となっ ている。一方「検討していない」のは『訪問系を含む組み合わせ』で最も高く55.1%であった。

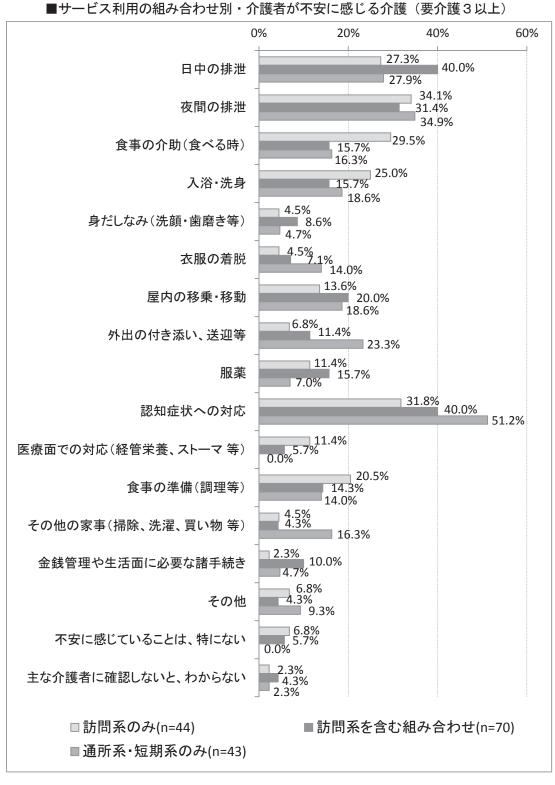


■サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)

(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【要介護3以上】

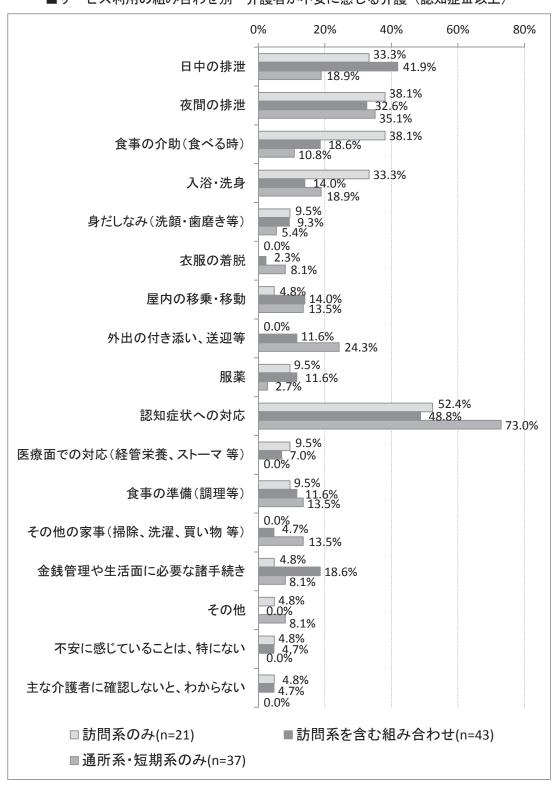
- ○『訪問系のみ』のサービス利用では、「夜間の排泄」が34.1%と最も高く、「認知症状への対応」が 31.8%、「食事の介助」が29.5%と続いた。
- ○『訪問系を含む組み合わせ』のサービス利用では、「日中の排泄」「認知症状への対応」がそれぞれ 40.0%で最も高く、「夜間の排泄」が31.4%と続いた。
- ○『通所系・短期系のみ』のサービス利用では、「認知症状への対応」が 51.2%と最も高く、「夜間の 排泄」が34.9%、「日中の排泄」が27.9%であった。



【認知症皿以上】

- ○『訪問系のみ』のサービス利用では、「認知症状への対応」が52.4%と最も高く、「夜間の排泄」 「食事の介助」がそれぞれ38.1%と続いた。
- ○『訪問系を含む組み合わせ』のサービス利用では、「認知症状への対応」が 48.8% と最も高く、「日中の排泄」が 41.9%、「夜間の排泄」が 32.6% と続いた。
- ○『通所系・短期系のみ』のサービス利用では、「認知症状への対応」が 73.0% と最も高く、「夜間の排泄」が 35.1%、「外出の付き添い、送迎等」が 24.3% と続いた。

■サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安に感じる介護(認知症Ⅲ以上)

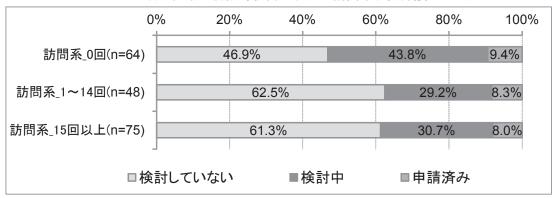


(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【訪問系、要介護3以上】

- ○『0回』では、施設等の入所を「検討中」が43.8%、「検討していない」が46.9%であった。
- ○『1~14回』では、施設等の入所を「検討していない」が62.5%、「検討中」が29.2%であった。
- ○『15回以上』では、施設等の入所を「検討していない」が61.3%、「検討中」が30.7%であった。

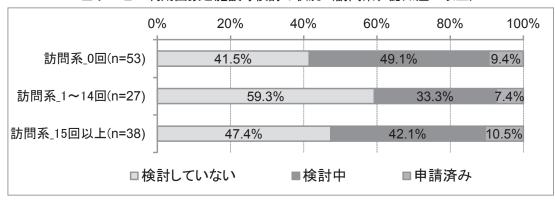
■サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、要介護3以上)



【訪問系、認知症皿以上】

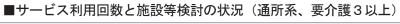
- ○『0回』では、施設等の入所を「検討中」が49.1%、「検討していない」が41.5%であった。
- ○『1~14回』では、施設等の入所を「検討していない」が59.3%、「検討中」が33.3%であった。
- ○『15回以上』では、施設等の入所を「検討していない」が47.4%、「検討中」が42.1%であった。

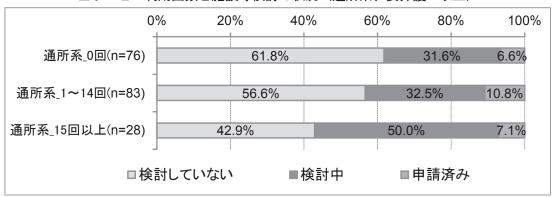
■サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、認知症Ⅲ以上)



【通所系、要介護3以上】

○利用回数が多くなるに従い、「検討中」の割合が高くなっていた。(『0回』: 31.6%、『1~14回』: 32.5%、『15回以上』: 50.0%)

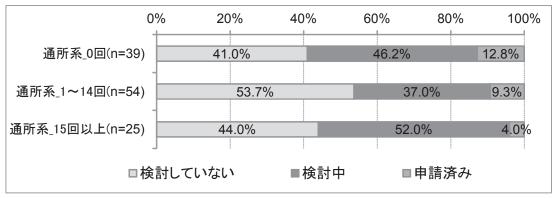




【通所系、認知症Ⅲ以上】

- 〇「検討していない」割合は、『 $1\sim14$ 回』が最も高く 53.7%で、次いで『15 回以上』の 44.0%であった。
- ○「検討中」の割合は、『15回以上』が最も高く52.0%で、次いで『0回』の46.2%であった。

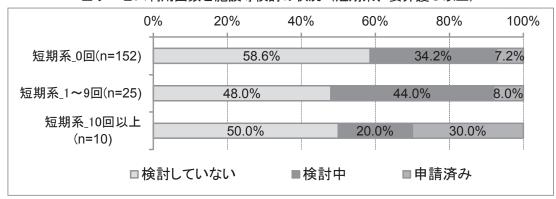
■サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)



【短期系、要介護3以上】

- ○「検討していない」割合は、『0回』が最も高く58.6%で、次いで『10回以上』の50.0%であった。
- ○「検討中」の割合は、『1~9回』が最も高く44.0%で、次いで『0回』の34.2%であった。

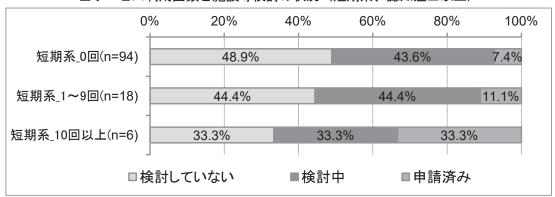
■サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)



【短期系、認知症Ⅲ以上】

- ○利用回数が多くなるに従い、「検討していない」割合が低くなっていた(『0回』:48.9%、『1~9回』:44.4%、『10回以上』:33.3%)。
- ○「検討中」の割合は、『1~9回』が最も高く44.4%で、次いで『0回』の43.6%であった。

■サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)

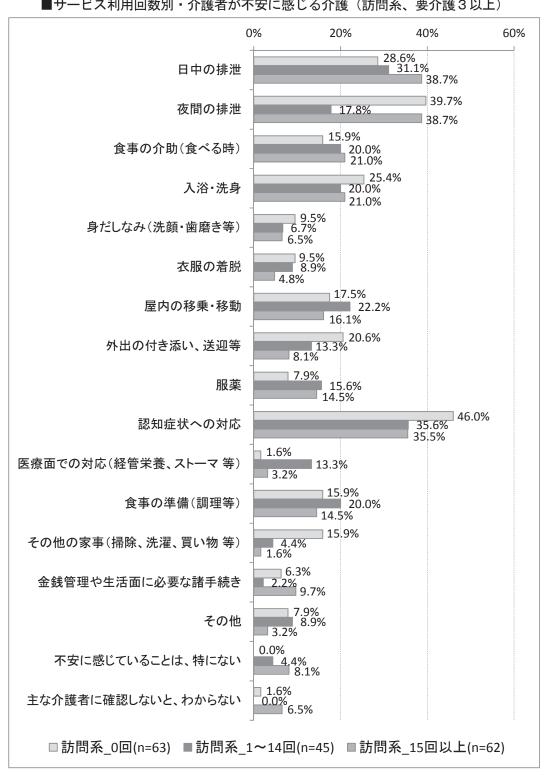


(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【訪問系、要介護3以上】

- ○『0回』では、「認知症状への対応」が46.0%で、「夜間の排泄」が39.7%、「日中の排泄」が28.6% と続いた。
- ○『1~14回』では、「認知症状への対応」が35.6%で、「日中の排泄」が31.1%、「屋内の移乗・移 動」が22.2%と続いた。
- ○『15 回以上』では、「日中の排泄」と「夜間の排泄」がそれぞれ 38.7%で、「認知症状への対応」 が35.5%と続いた。

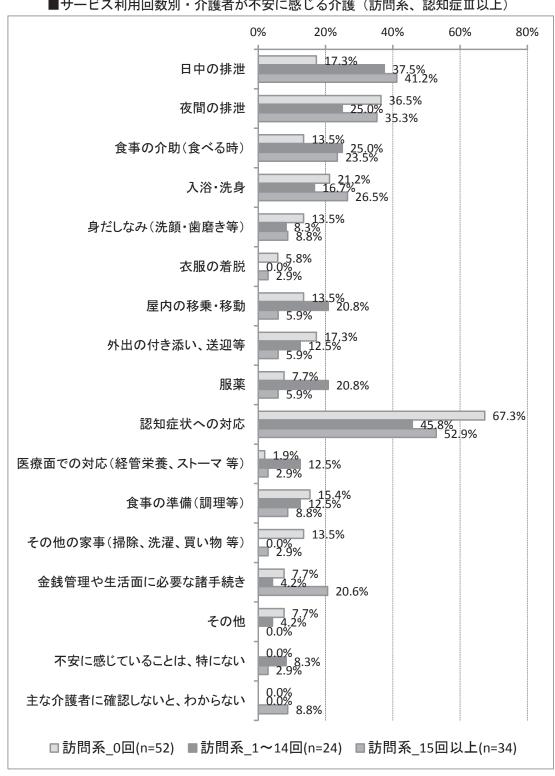
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護(訪問系、要介護3以上)



【訪問系、認知症Ⅲ以上】

- ○いずれの利用回数においても、「認知症状への対応」の割合が最も高かった。(『0回』:67.3%、『1 ~14 回』: 45.8%、『15 回以上』: 52.9%)
- ○『0回』では、「夜間の排泄」が36.5%、「入浴・洗身」が21.2%と続いた。
- ○『1~14回』では「日中の排泄」が37.5%、「夜間の排泄」「食事の介助」がそれぞれ25.0%と続 いた。
- ○『15回以上』では、「日中の排泄」が41.2%、「夜間の排泄」が35.3%と続いた。

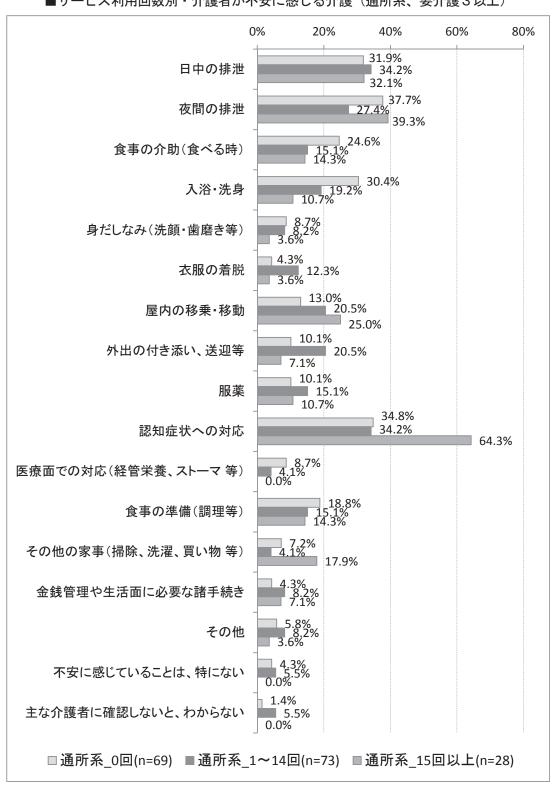
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護(訪問系、認知症Ⅲ以上)



【通所系、要介護3以上】

- ○『0回』では、「夜間の排泄」が37.7%で、「認知症状への対応」が34.8%、「日中の排泄」が31.9% と続いた。
- ○『1~14回』では、「認知症状への対応」と「日中の排泄」がそれぞれ 34.2%で、「夜間の排泄」が 27.4% と続いた。
- ○『15 回以上』では、「認知症状への対応」が 64.3%と高く、「夜間の排泄」が 39.3%、「日中の排泄」 が 32.1%と続いた。

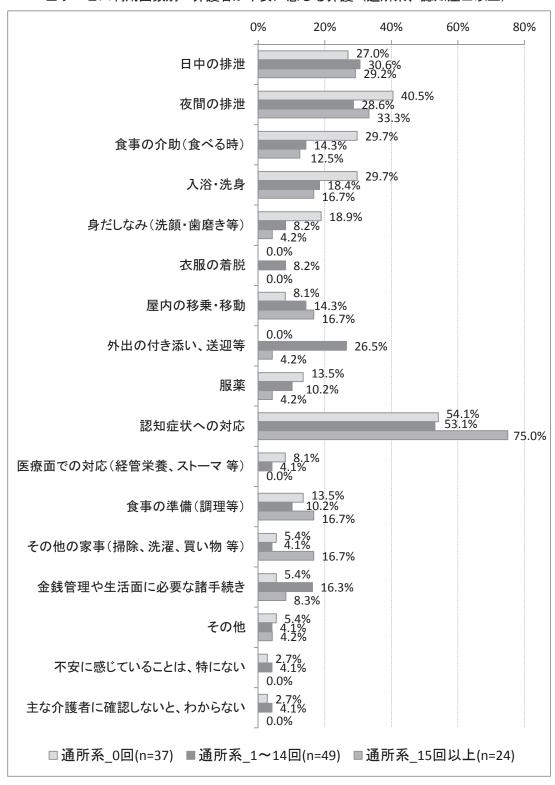
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護(通所系、要介護3以上)



【通所系、認知症皿以上】

- ○いずれの利用回数においても「認知症状への対応」の割合が高かった(『0回』: 54.1%、『1~14回』: 53.1%、『15回以上』: 75.0%)。
- ○『0回』では、「夜間の排泄」が 40.5%、「食事の介助」と「入浴・洗身」がそれぞれ 29.7% と続いた。
- ○『1~14回』では、「日中の排泄」が30.6%、「夜間の排泄」が28.6%と続いた。
- ○『15回以上』では、「夜間の排泄」が33.3%、「日中の排泄」が29.2%と続いた。

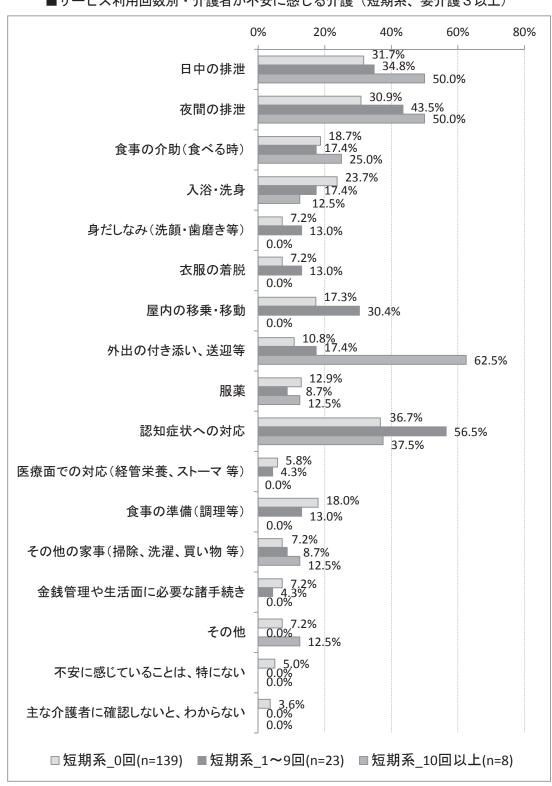
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)



【短期系、要介護3以上】

- ○『0回』では、「認知症状への対応」が36.7%で、「日中の排泄」が31.7%、「夜間の排泄」が30.9%と続いた。
- ○『1~9回』では、「認知症状への対応」が56.5%で、「夜間の排泄」が43.5%、「日中の排泄」が34.8%と続いた。
- ○『10 回以上』では、「外出の付き添い、送迎等」が 62.5% と高く、「日中の排泄」と「夜間の排泄」 がそれぞれ 50.0% と続いた。

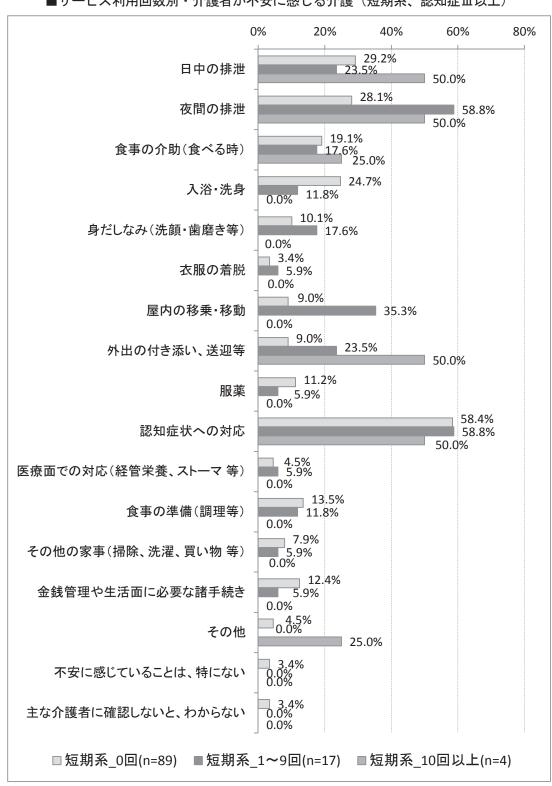
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護(短期系、要介護3以上)



【短期系、認知症Ⅲ以上】

- ○『0回』では、「認知症状への対応」が最も高く 58.4%で、「日中の排泄」が 29.2%、「夜間の排泄」 が 28.1%と続いた。
- ○『1~9回』では、「認知症状への対応」と「夜間の排泄」が最も高く 58.8%で、「屋内の移乗・移動」が 35.3% と続いた。
- ○『10回以上』では、「認知症状への対応」、「日中の排泄」、「夜間の排泄」および「外出の付き添い、送迎等」が最も高く50.0%であった。

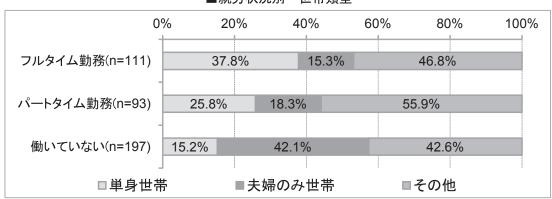
■サービス利用回数別・介護者が不安に感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)



2 主な介護者の就労状況と就労継続見込み

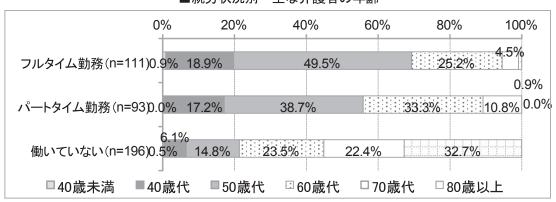
(1) 基本集計

- ○『フルタイム勤務』では「その他」が46.8%と最も高く、次いで「単身世帯」の37.8%であった。
- ○『働いていない』では「その他」が42.6%と最も高く、「夫婦のみ世帯」も42.1%と4割を超えた。



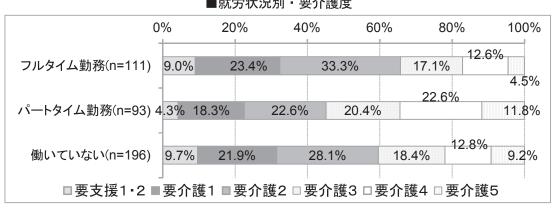
■就労状況別・世帯類型

- ○介護者の年齢について、『フルタイム勤務』では「50歳代」が49.5%と約半数を占め、「60歳代」 は25.2%と約4分の1を占めた。
- ○『パートタイム勤務』では「50歳代」が38.7%と最も高かったが、「60歳代」も33.3%と約3分 の1を占めた。



■就労状況別・主な介護者の年齢

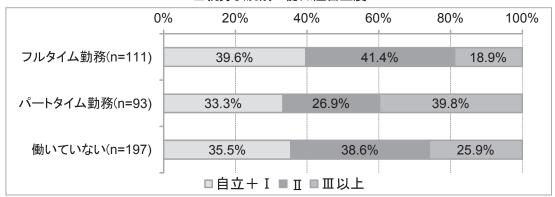
○『フルタイム勤務』『パートタイム勤務』『働いていない』のいずれにおいても「要介護2」が最も 高くそれぞれ33.3%、22.6%、28.1%となっていた。



■就労状況別・要介護度

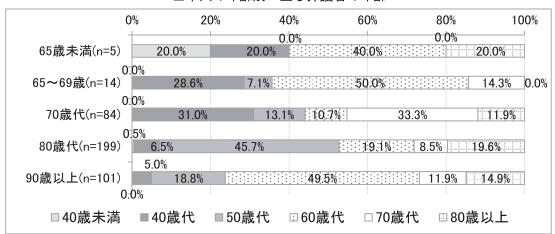
- ○『フルタイム勤務』および『働いていない』は認知症自立度「II」が最も高く、それぞれ 41.4%、 38.6%であった。
- ○『パートタイム勤務』は認知症自立度「Ⅲ以上」が最も高く39.8%であった。





- ○本人の年齢が『65 歳未満』『65~69 歳』『90 歳以上』では主な介護者の年齢は「60 歳代」が最も高くそれぞれ 40.0%、50.0%、49.5%となっていた。
- ○本人の年齢が『70 歳代』では主な介護者は「70 歳代」が最も高く 33.3%で、「40 歳代」が 31.0% と続いた。
- ○本人の年齢が『80歳代』では主な介護者は「50歳代」が最も高く、45.7%であった。

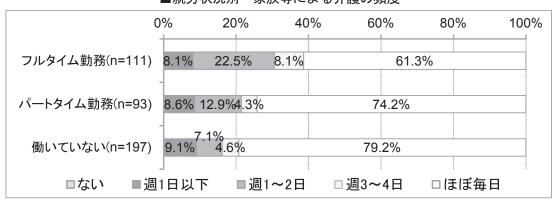
■本人の年齢別・主な介護者の年齢



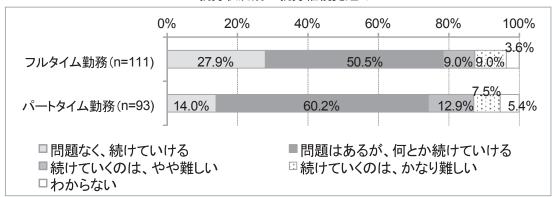
(2) 就労状況別の就労継続見込み

- ○「ほぼ毎日」介護している割合は、『働いていない』で 79.2%と最も高く、『パートタイム勤務』の 74.2%、『フルタイム勤務』の 61.3%と続いた。
- ○就労継続見込みについては、『フルタイム勤務』『パートタイム勤務』とも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高くそれぞれ50.5%、60.2%であった。
- 〇要介護度別の就労継続見込みについては、『要支援 1 ~要介護 1 』『要介護 2 以上』ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ 49.1%、57.1%であった。
- 〇認知症自立度別の就労継続見込みについては、『自立+I』 『II以上』ともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ 49.3%、58.1%であった。

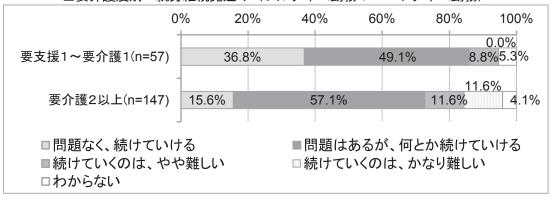
■就労状況別・家族等による介護の頻度



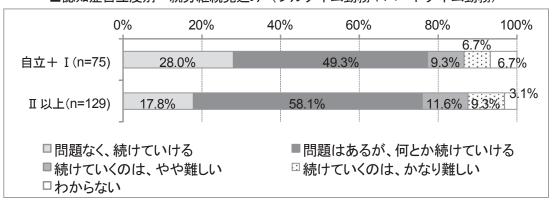
■就労状況別・就労継続見込み



■要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



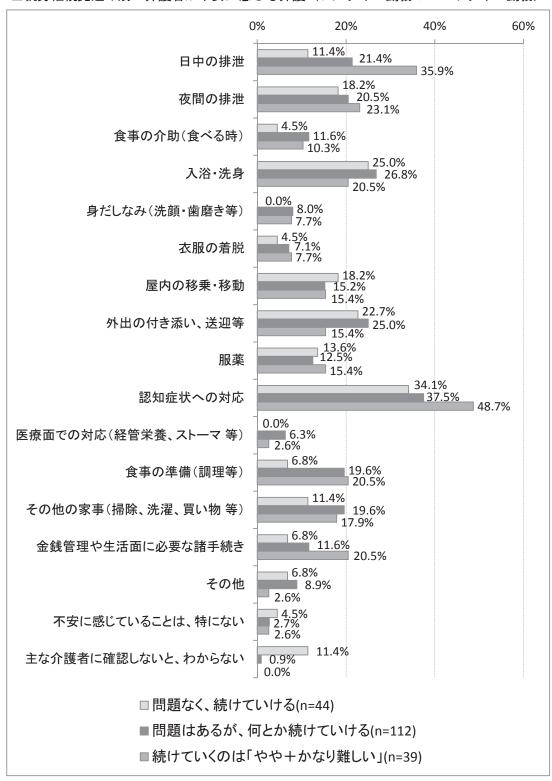
■認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(3) 「就労継続見込み」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

○『問題なく、続けていける』『問題はあるが、何とか続けていける』『続けていくのは「やや+かなり難しい」』のいずれにおいても、「認知症状への対応」が最も高かった。(それぞれ 34.1%、37.5%、48.7%)

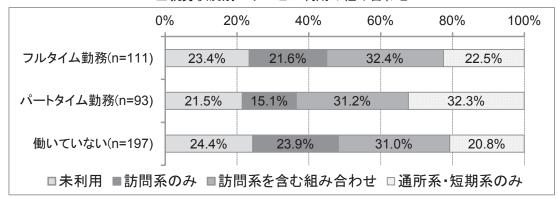
■就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

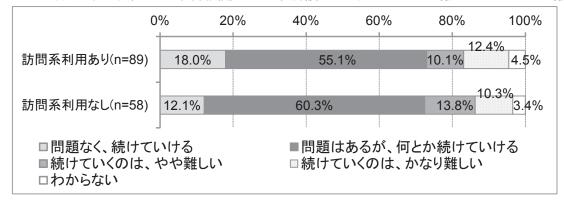
- ○『フルタイム勤務』『働いていない』については、「訪問系を含む組み合わせ」が最も高く、それ ぞれ 32.4%、31.0%であった。
- ○『パートタイム勤務』では「通所系・短期系のみ」が最も高く、32.3%であった。

■就労状況別・サービス利用の組み合わせ

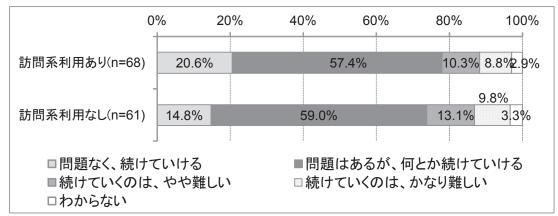


○要介護2以上の就労継続見込みは『訪問系利用あり』『訪問系利用なし』とも「問題はあるが何とか続けていける」が最も高くそれぞれ55.1%、60.3%であった。

■サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



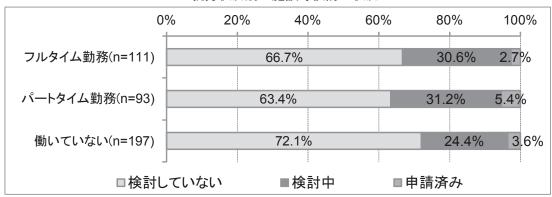
- ○認知症自立度Ⅱ以上においても『訪問系利用あり』『訪問系利用なし』とも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高く、それぞれ57.4%、59.0%であった。
- ■サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み (認知症自立度 II 以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(5) 就労状況別の施設等検討の状況

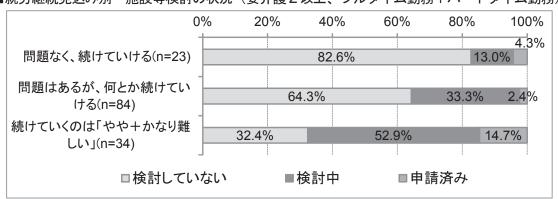
○『フルタイム勤務』『パートタイム勤務』『働いていない』とも施設等の入所を「検討していない」 が最も高く、それぞれ 66.7%、63.4%、72.1%であった。

■就労状況別・施設等検討の状況



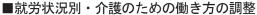
○就労継続見込みについて『問題なく、続けていける』では、施設等の入所を「検討していない」が 最も高く82.6%であったが、『続けていくのは「やや+かなり難しい」』では、「検討中」が52.9% と最も高かった。

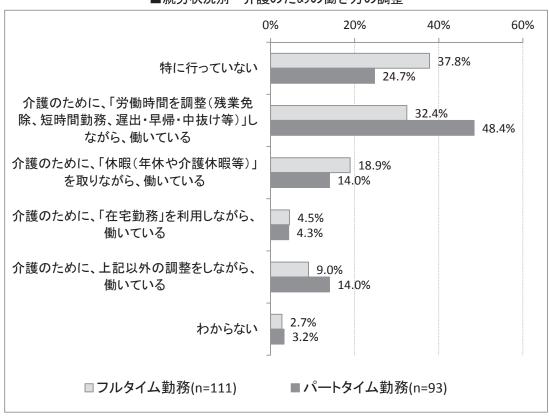
■就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(6) 就労状況別の介護のための働き方の調整

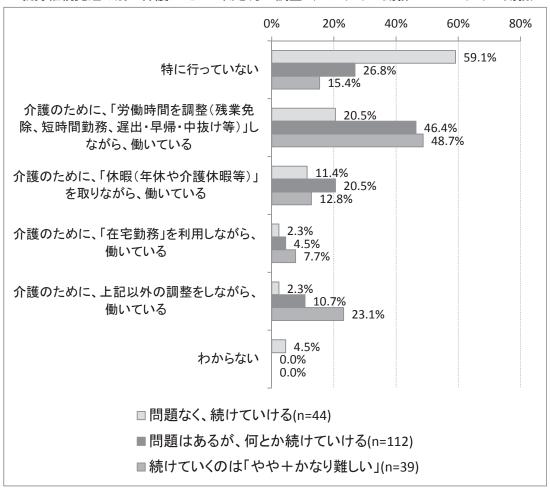
○『フルタイム勤務』では介護のための働き方の調整を「特に行っていない」が37.8%と最も高く、 『パートタイム勤務』では「介護のために、『労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早 帰・中抜け等)』しながら、働いている」が48.4%と最も高かった。





○就労継続見込みについて『問題なく、続けていける』では、介護のための働き方の調整を「特に行っていない」が 59.1%と最も高く、『続けていくのは「やや+かなり難しい」』では、「介護のために、『労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)』しながら、働いている」が 48.7%と最も高かった。

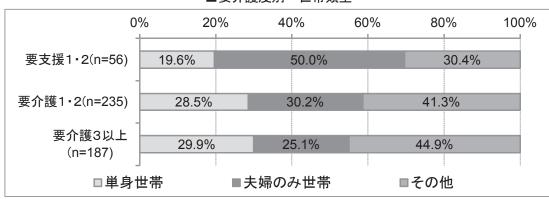
■ 就労継続見込み別·介護のための働き方の調整 (フルタイム勤務+パートタイム勤務)



3 世帯類型別のサービス利用や施設等の検討状況

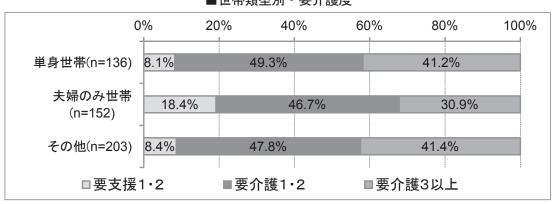
(1) 基礎集計

○要介護度が重度化するに従い、「単身世帯」の割合が高くなり(『要支援1・2』は19.6%、『要介護1・2』は28.5%、『要介護3以上』は29.9%)、一方「夫婦のみ世帯」の割合が低くなっていた(『要支援1・2』は50.0%、『要介護1・2』は30.2%、『要介護3以上』は25.1%)。



■要介護度別·世帯類型

○『単身世帯』『夫婦のみ世帯』『その他』いずれも「要介護 1 · 2」が最も高く、それぞれ 49.3%、46.7%、47.8%であった。



■世帯類型別・要介護度

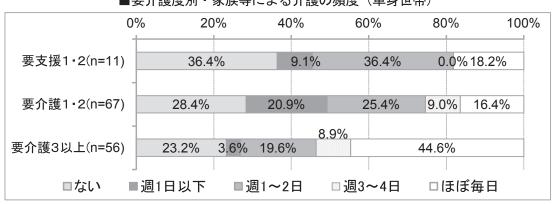
(2) 「世帯類型別・要介護度別」の「家族等による介護の頻度」

○『単身世帯』『夫婦のみ世帯』『その他』とも、家族による介護の頻度が「ほぼ毎日」が最も高く それぞれ 27.9%、60.1%、83.8%となっていた。



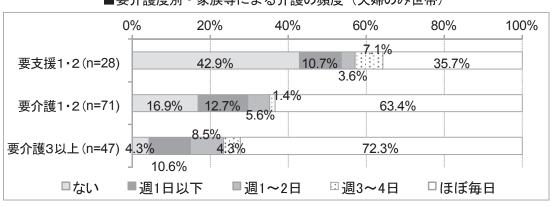
■世帯類型別・家族等による介護の頻度

〇単身世帯では要介護度の重度化に伴い「ない」の割合が低くなり(『要支援 $1 \cdot 2$ 』は 36.4%、『要介護 $1 \cdot 2$ 』は 28.4%、『要介護 3以上』は 23.2%)、「ほぼ毎日」の割合が高くなっていた(『要支援 $1 \cdot 2$ 』は 18.2%、『要介護 $1 \cdot 2$ 』は 16.4%、『要介護 3以上』は 44.6%)。



■要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)

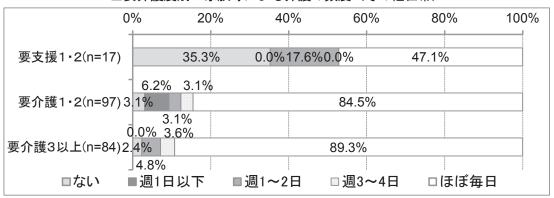
〇夫婦のみ世帯においても要介護度の重度化に伴い「ない」の割合が低くなり(『要支援 $1 \cdot 2$ 』は 42.9%、『要介護 $1 \cdot 2$ 』は 16.9%、『要介護 3 以上』は 4.3%)、「ほぼ毎日」の割合が高くなって いた(『要支援 $1 \cdot 2$ 』は 35.7%、『要介護 $1 \cdot 2$ 』は 63.4%、『要介護 3 以上』は 72.3%)。



■要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)

○その他世帯においては、いずれの介護度においても「ほぼ毎日」が最も高かった。

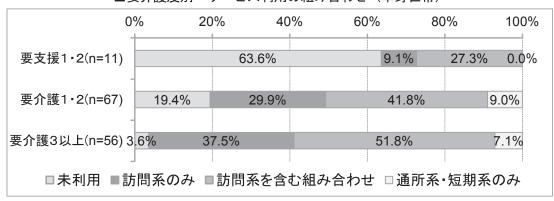
■要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)



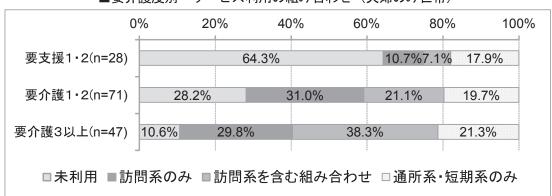
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

- ○単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯とも要介護度の重度化に伴い、サービスの「未利用」が少なくなり、サービス利用の割合が高くなっていた。
- ○『要介護3以上』においては、単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯のいずれにおいても、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が最も高かった。

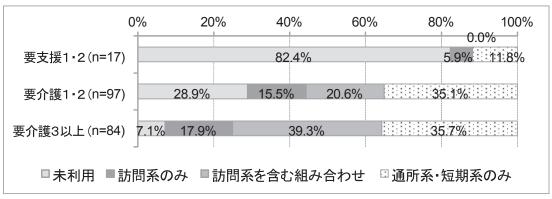
■要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)



■要介護度別・サービス利用の組み合わせ (夫婦のみ世帯)

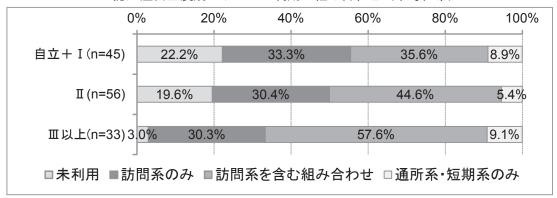


■要介護度別・サービス利用の組み合わせ (その他世帯)

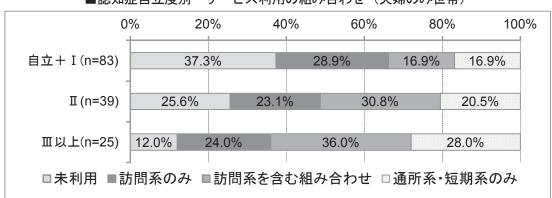


- ○単身世帯、夫婦のみ世帯、その他世帯とも認知症自立度の重度化に伴い、サービスの「未利用」が 少なくなり、サービス利用の割合が高くなっていた。
- ○『認知症自立度Ⅲ以上』において、単身世帯、夫婦のみ世帯では「訪問系を含む組み合わせ」が最も高くそれぞれ57.6%、36.0%で、その他世帯では、「通所系・短期系のみ」が46.7%と最も高かった。

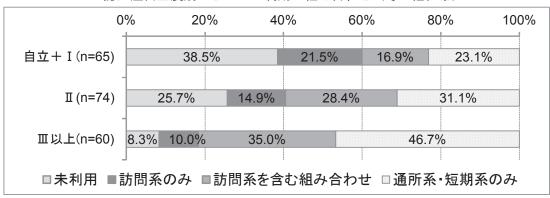
■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)



■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)

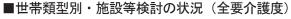


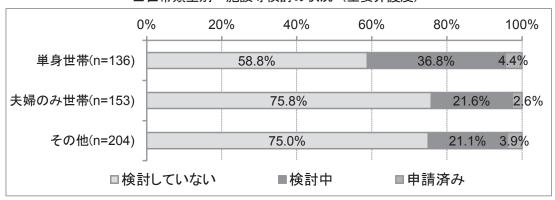
■認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

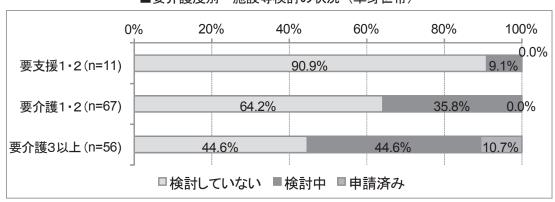
○『単身世帯』では41.2%が施設等の入所を「検討中」および「申請済み」と回答。同様に『夫婦のみ世帯』では24.2%、『その他』では25.0%が施設等の入所を「検討中」および「申請済み」と回答した。



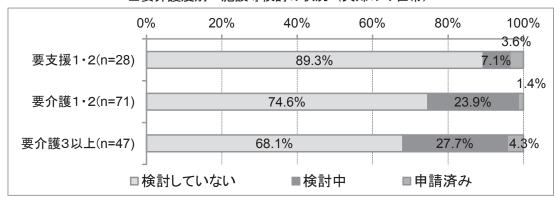


- ○要介護度別・施設等検討の状況について単身世帯では、施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は、『要支援1・2』で9.1%、『要介護1・2』で35.8%、『要介護3以上』で55.3%であった。夫婦のみ世帯においても同様の傾向であった。その他世帯では『要支援1・2』で施設等の入所を「検討していない」割合が100%であった。
- ○いずれの世帯においても介護度の重度化に伴い施設等の入所を検討中、申請済みの割合が増える傾向にあった。

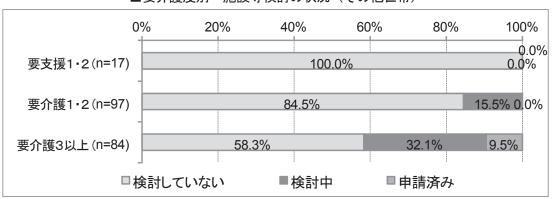
■要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)



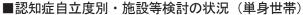
■要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)

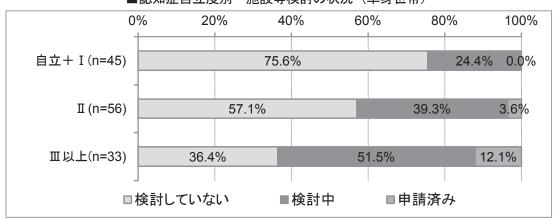


■要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)

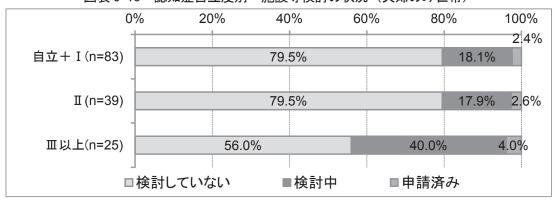


- ○認知症自立度別・施設等検討の状況について単身世帯では、施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は、『自立+I』で24.4%、『Ⅱ』で42.9%、『Ⅲ以上』で63.6%と認知症自立度の重度化に伴い高くなっていた。
- ○夫婦のみ世帯では施設等の入所を「検討中」および「申請済み」の割合は、『自立+I』、『II』でいずれも約2割、『III以上』で44.0%であった。
- ○その他の世帯では『自立+Ⅰ』で施設等の入所を「検討していない」割合が95.4%と高率であった。
- ○いずれの世帯においても『Ⅲ以上』で施設等の入所を「検討中」、「申請済み」の割合が増える傾向にあった。





図表 3-18 認知症自立度別・施設等検討の状況 (夫婦のみ世帯)



図表 3-19 認知症自立度別・施設等検討の状況 (その他の世帯)

